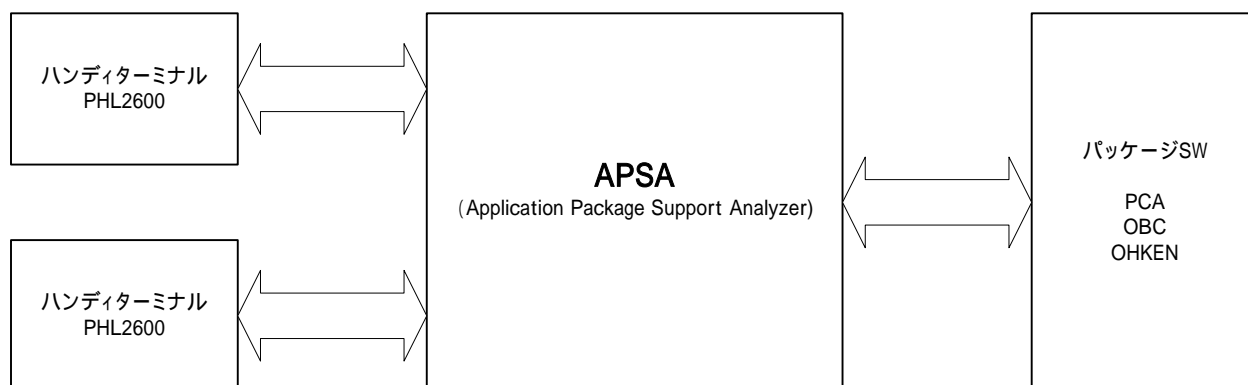

APSA機能概要

2003-5



機能概要

- ・テスコ製ハンディスキャナー (PHLシリーズ) と各アプリケーションパッケージのリンクを行います。
- ・各アプリケーションのカスタマイズなしに、すぐハンディターミナルでの運用が始められます。



- ・サトー製プチラパンに対応します (オプション)
ハンディターミナルからの赤外線通信でレシート発行などに利用できます。

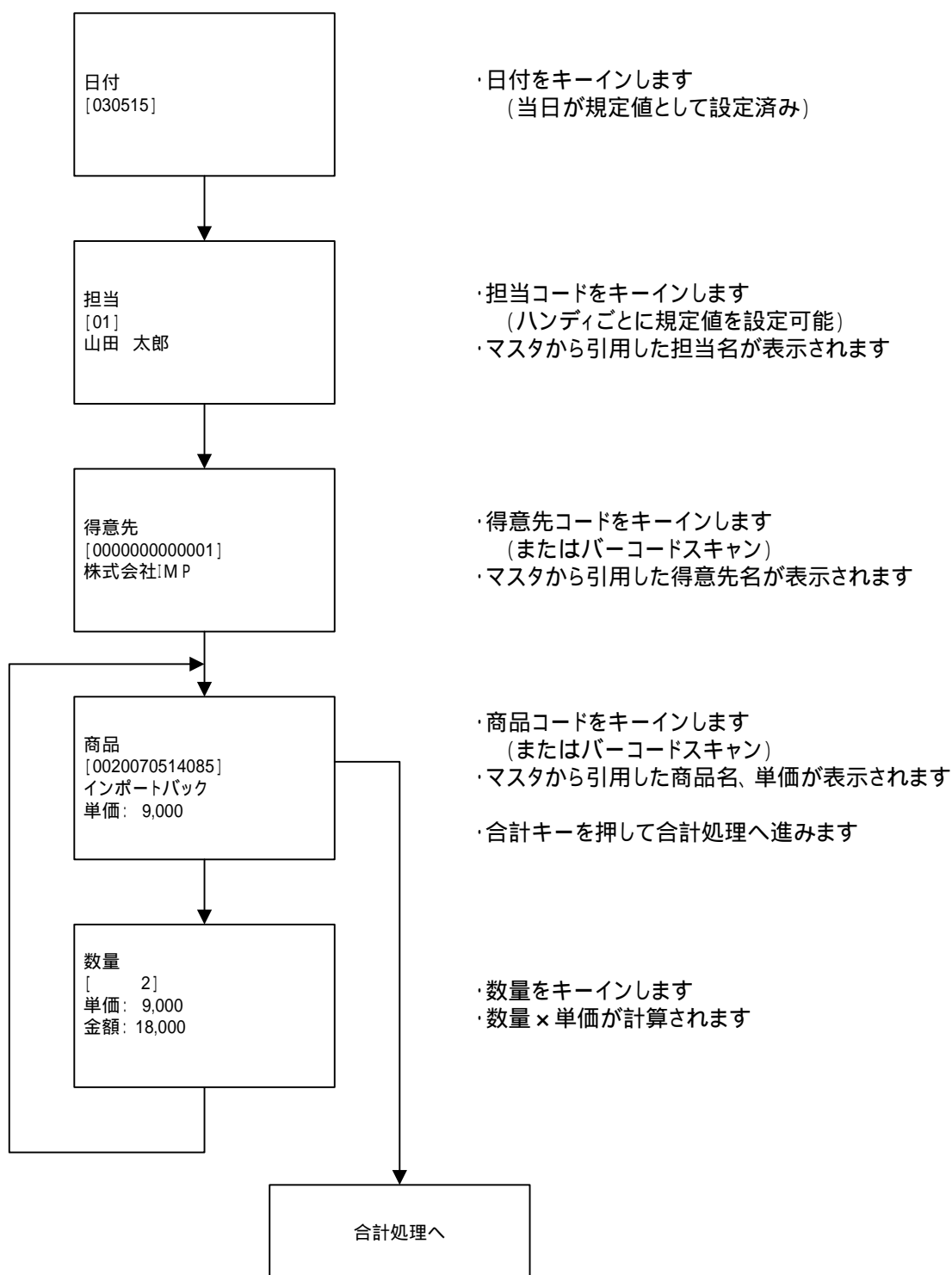
株式会社IMP 様		
	2003-05-15	15:00
0020080304072		
アランドロン香水	1	7,000
0020070514085		
インポートバッグ	2	18,000
0020070114087		
メンズバッグ	1	5,000
合計		30,000
消費税		1,500
預かり		35,000
おつり		3,500
毎度お買い上げありがとうございました		

ハンディターミナルの機能

ハンディターミナルでは以下の機能を実現しています。

- ・売上処理
- ・仕入処理
- ・振替処理
- ・棚卸処理

ハンディターミナルの操作 < 売上 >



< 合計処理 >

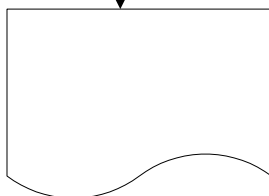
1 / 3
インポートバック
数量: 2
金額: 18,000

- ・入力した明細の先頭行が表示されます
(左記例では3行中の1行目が表示)
- ・カーソル上下キーで明細の表示を切り替えます
(1行目・2行目・3行目・・・と順次切り替わります)
- ・入力内容を確認してください
- ・編集したい行を表示し「Enterキー」を押すと
その行の内容を編集できます
- ・削除した行を表示し「DELキー」を押すと
その行を削除します
- ・内容がOKであれば「登録キー」を押します

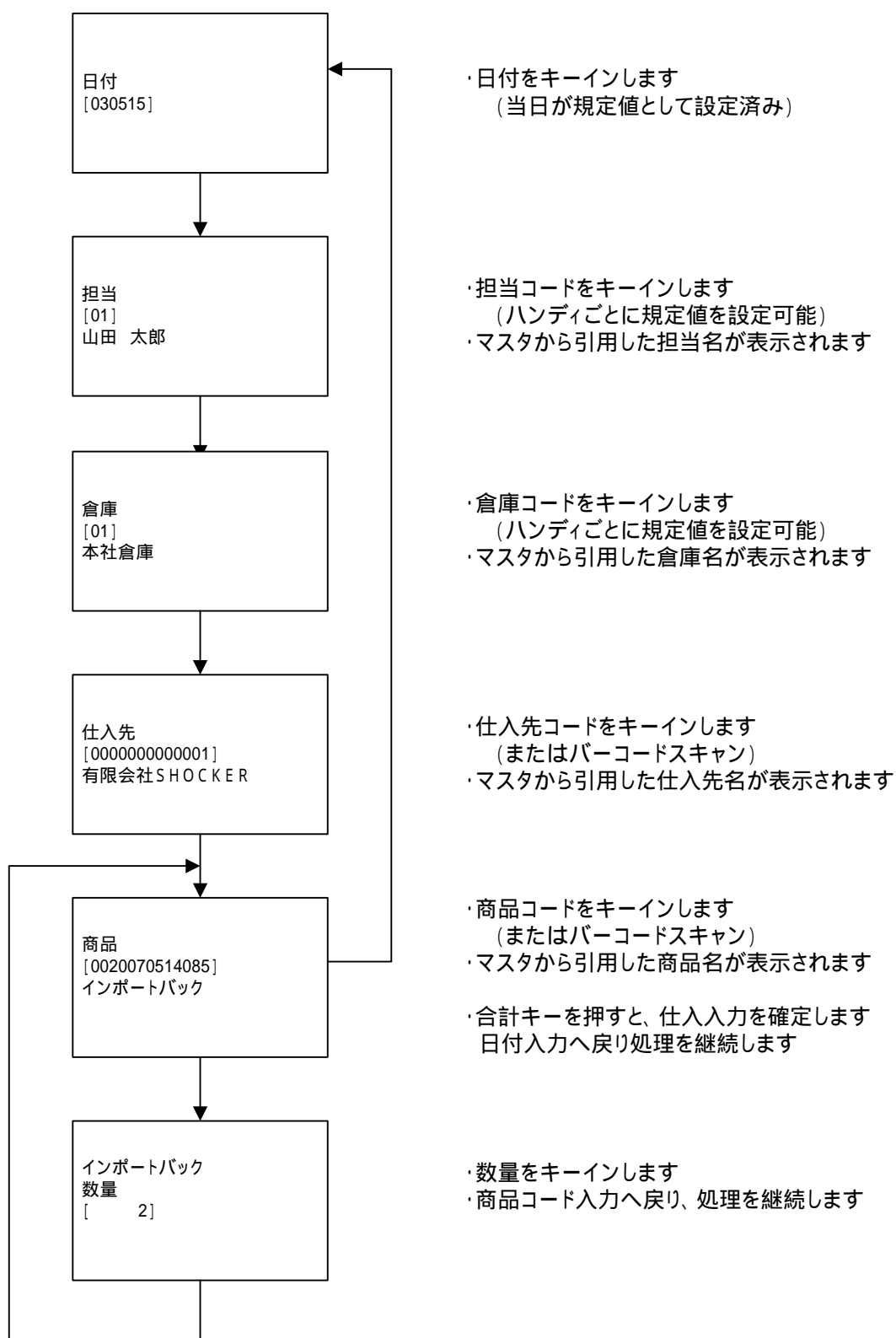
1・レシート印刷
2・レシート控え印刷
3・領収書印刷
4・データ登録

- ・テンキー「4」でデータを登録します。
登録後、日付入力へ戻り処理を続けます。
- ・印刷オプションありの場合
各種レシートを印刷します。
 - ・得意先向けレシート
 - ・レシート自社控え
 - ・合計金額のみの領収書

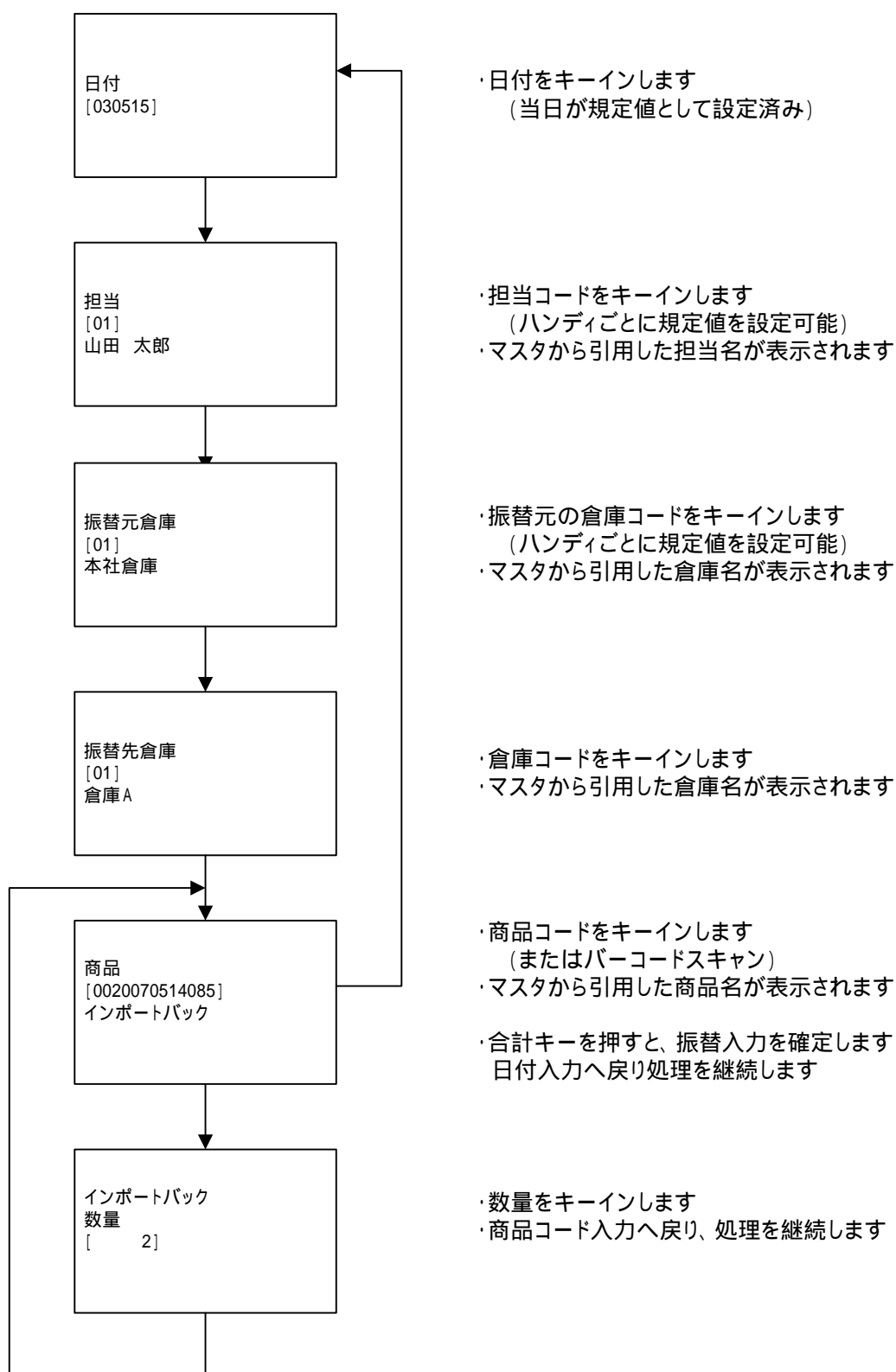
日付
[030515]



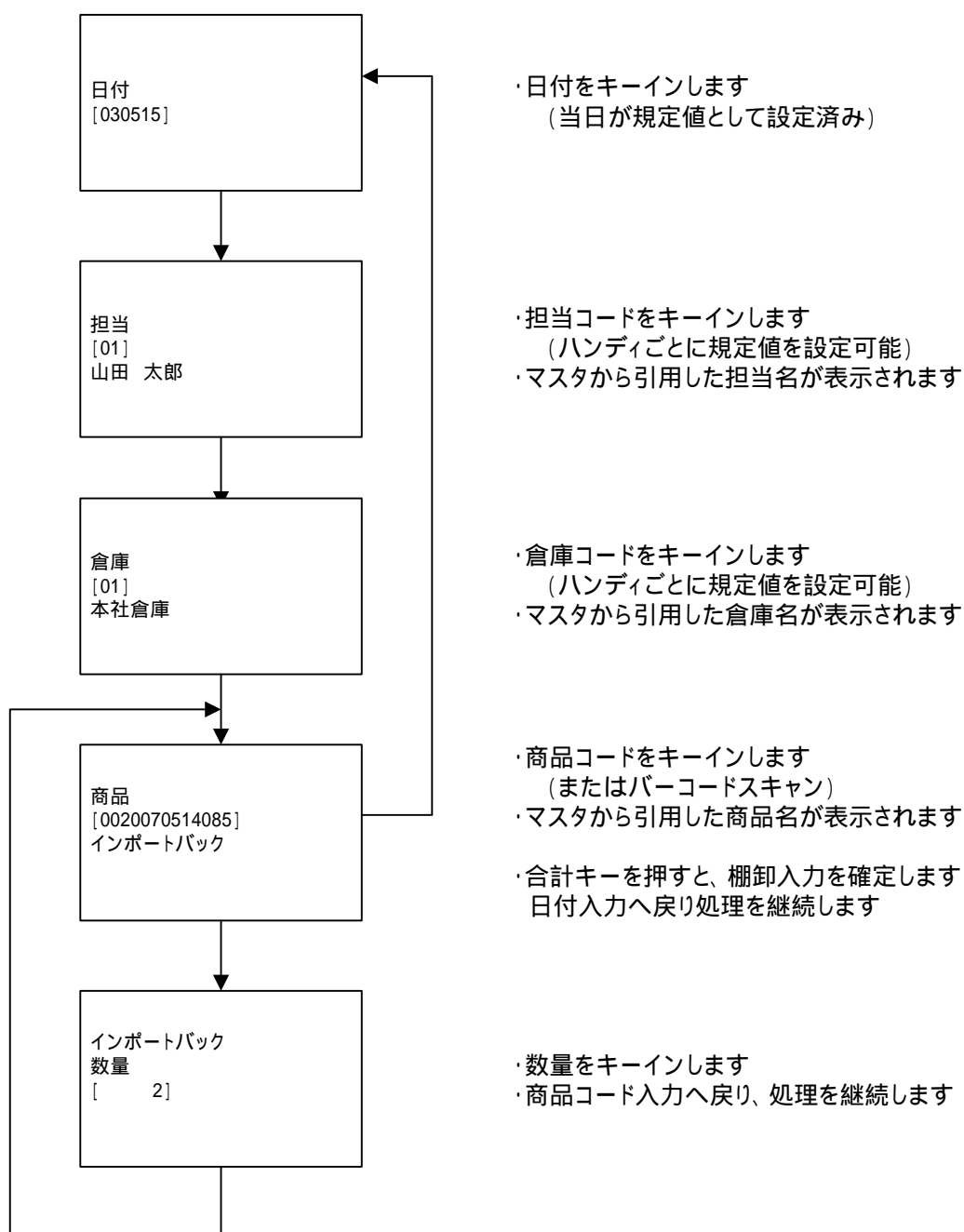
ハンディターミナルの操作 < 仕入 >



ハンディターミナルの操作 < 振替 >



ハンディターミナルの操作 < 棚卸 >



パソコンでの操作

下記の機能はパソコン側での操作によって実現します

- ・ハンディの環境設定
 - ・担当の規定値
 - ・倉庫の規定値
 - など
- ・ハンディへのマスタ送信
 - ・商品マスタ
 - ・担当マスタ
 - ・倉庫マスタ
 - ・得意先マスタ
 - ・仕入先マスタ
- ・ハンディからのデータ受信
 - ・売上受信
 - ・仕入受信
 - ・振替受信
 - ・棚卸受信
- ・パッケージへのデータ作成
 - ・売上データの作成
 - ・仕入データの作成
 - ・振替データの作成
 - ・棚卸データの作成

各種パッケージのバージョン等によって仕様が異なります。

- ・汎用データの作成
- ・自動登録エンジンなどを使用した巡回登録
- ・直接DB操作による登録

次ページ以降に操作画面のイメージを添付します

メインメニュー

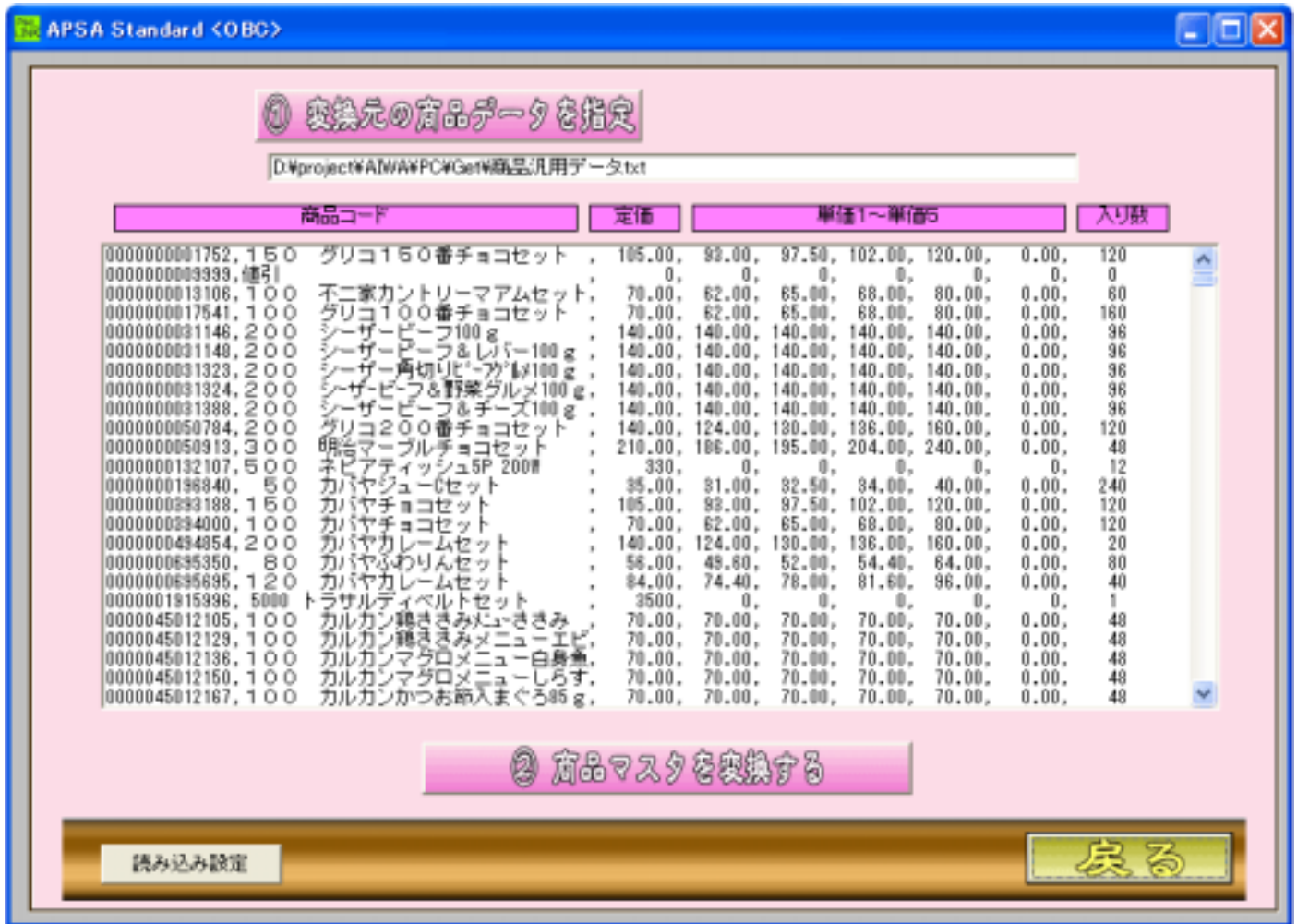


パソコン側のメインメニューです。(実際の画面とは細部が異なる場合があります)

左側(黄色のエリア)がハンディスキャナとのインターフェース。
右側(ピンクのエリア)がバックヤードとのインターフェース。
中央(緑のエリア)がAPSA本体に取り込んだデータの確認。

となり、直感的な操作でわかりやすいメニュー構成です。

バックヤードからのマスタ取り込み



バックヤードの商品マスタをAPSAに取り込む画面です。

上記例では「バックヤードから出力された汎用データ」を取り込んでいます。内容に問題がなければAPSA内のデータベースへ変換し取り込みます。



左記の画面では、取り込む汎用データの設定を行っています。(例)

基本的にはバックヤードの仕様に応じて設定済みですが、CSV形式のデータであればこの画面の設定内容に従って取り込む項目を判断します。

物流コードへの変換定義

商品コード	商品名	物流コード
▶ 0000000000001752	150 グリコ150番チョコセット	
0000000000009999	値引	
000000000000a-nn		
0000000000013106	100 不二家カントリーマアムセット	
0000000000017541	100 グリコ100番チョコセット	
0000000000031146	200 シーザービーフ100g	
0000000000031148	200 シーザービーフ&レバー100g	
0000000000031323	200 シーザー角切ビーフグルメ100g	
0000000000031324	200 シーザービーフ&野菜グルメ100g	
0000000000031388	200 シーザービーフ&チーズ100g	
0000000000050784	200 グリコ200番チョコセット	
0000000000050913	300 明治マープルチョコセット	
0000000000132107	500 ネビアティッシュ5P 200W	0184901121132100
0000000000196840	50 カバヤジュウ〇セット	

APSAに取り込んだ商品マスタに対して「物流コード」への変換を定義します。

バックヤードでの商品コードとハンディでスキャンするコードが同一の場合は定義する必要がありません。

上記の例では

- ・バックヤードでの「132107」コードは
- ・ハンディでは「134901121132100」として取り扱います。

ダンボール単位でスキャンする場合に

- ・単品の商品コード(13桁)と
- ・ダンボールに表記された物流コード(16桁)が異なる場合、APSAを経由する事で「相互変換」を行います。

ハンディでは16桁コードでマスタを生成しますがハンディから送られた16桁の情報を元の13桁に変換してバックヤードへ渡します。

ハンディへのマスタ送信

APSA Standard <OBC>

商品コード	商品名	単価	物流コード
▶ 0000000000001752	150 グリコ150番チョコセット	105	
0000000000000999	値引	0	
0000000000013106	100 不二家カントリーマアムセット	70	
0000000000017541	100 グリコ100番チョコセット	70	
0000000000031146	200 シーザービーフ100g	140	
0000000000031148	200 シーザービーフ&レバー100g	140	
0000000000031323	200 シーザー角切ビーフグルメ100g	140	
0000000000031324	200 シーザービーフ&野菜グルメ100g	140	
0000000000031388	200 シーザービーフ&チーズ100g	140	
0000000000050784	200 グリコ200番チョコセット	140	
0000000000050913	300 明治マーブルチョコセット	210	
0000000000132107	500 ネピアティッシュ5P 200W	330	018490112113210C
0000000000196840	50 カバヤシューCセット	35	
0000000000393188	150 カバヤチョコセット	105	
0000000000394000	100 カバヤチョコセット	70	
0000000000494854	200 カバヤカレームセット	140	
0000000000695350	50 カバヤふわりんセット	56	

シート内のデータを直接編集してもデータの保続はできません。

ハンディへは定価を単価としてを送信します

物流コードが登録されていればハンディへは物流コードを送信します

商品マスタをハンディへ転送します。

ハンディへ送信する

戻る

ハンディへ商品マスタを転送する画面です。

転送しようとする商品マスタの内容を確認できます。

右端の物流コードが定義してある場合は、16桁としてハンディへ渡します。

ハンディからのデータ受信



ハンディと通信を行い、データを受信する画面です。

上記例では「棚卸データ」を受信しています。

受信したデータをAPSAに「追加登録」するか「上書き登録」するかを選択できます。
(上書きの場合、APSAにすでに取り込み済みのデータは消去されます)

商品コードが「赤字」のデータについては
物流コードを通常コード(バックヤードの商品コード)に変換する事を意味しています。

受信データの編集

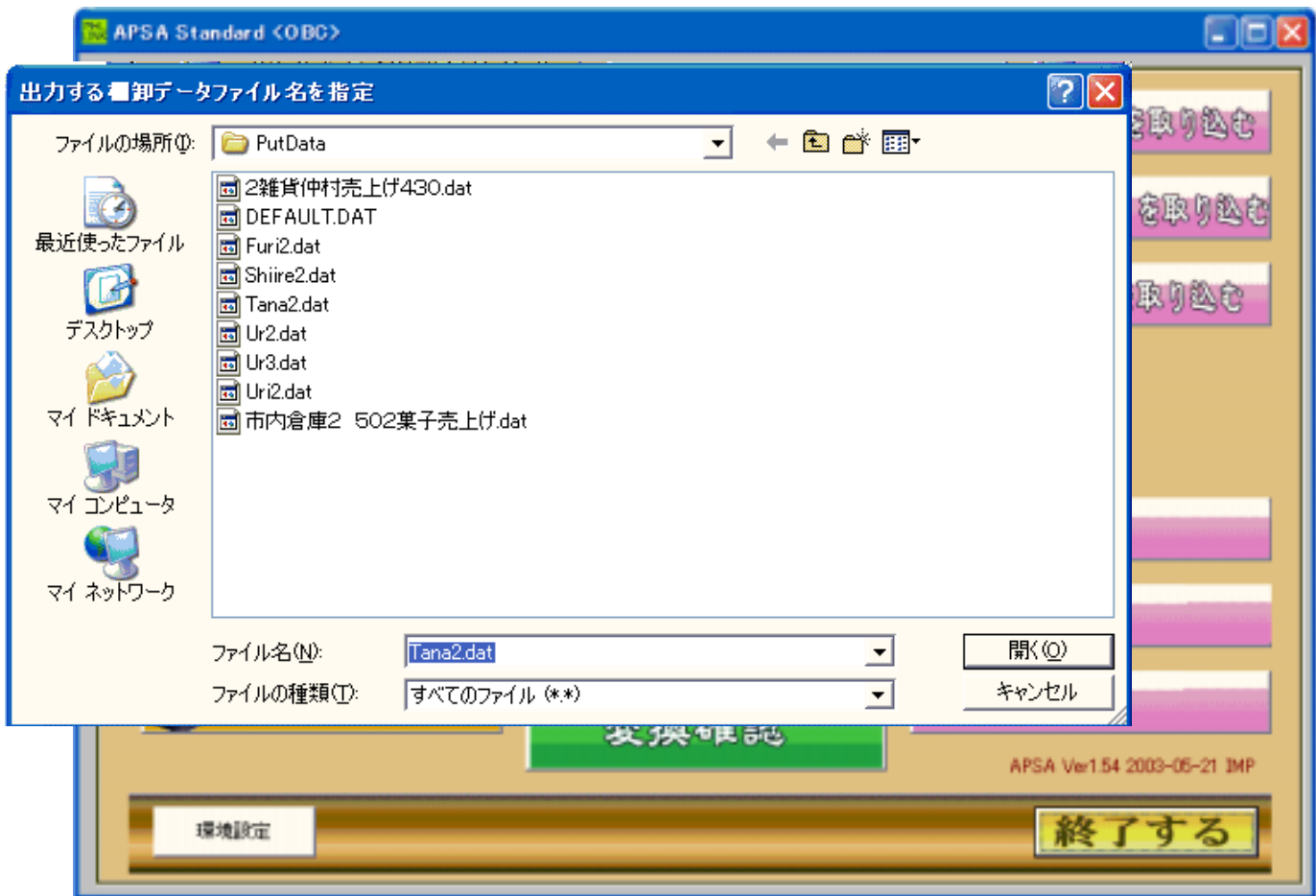
日付	倉庫	商品コード	商品名	数量
2003/03/28	01	0000000000001752	150 グリコ150番チョコセット	40
2003/03/28	01	00000000000031146	200 シーザービーフ100g	40
2003/03/28	01	0000000045012150	100 カルカンマグロメニューしらす	1000

APSAに取り込んだデータを編集する画面です。

上記例では棚卸データを編集しています。
不要な行を削除したり
誤ったデータを変更する事ができます。

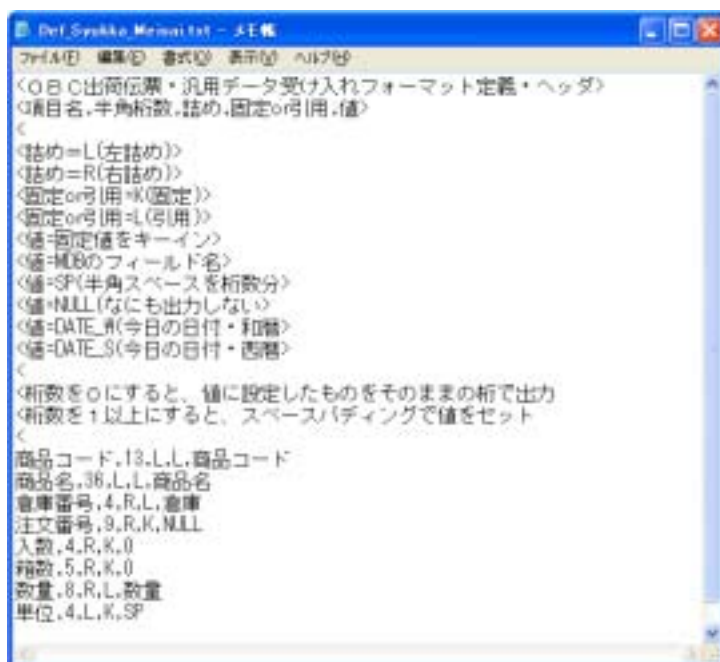
バックヤードにデータを渡す前に、APSAで内容を確認・編集する事ができます。

バックヤードへ渡すデータの作成



APSA内に取り込んだ「棚卸データ」をバックヤードへ渡します。

上記例では「バックヤードで受け入れ可能なフォーマットの汎用データ」として出力しています。



左記の画面は、出力する汎用データの設定画面です(例)

基本的にはバックヤードの仕様に
に応じて設定済みですが、固定
値の設定などを必要とする場合
など、簡単な設定で出力ファイル
を定義できます。